

# 柏原市所在遺跡発掘調査概報

1996年度

1997年3月

柏原市教育委員会

## はしがき

柏原市は河内平野の南東部に位置し、市域のおよそ3分の2が山地や丘陵で占め、その間を縫って石川や大和川が流れる府下でも有数の風光明媚な緑が多い町です。近年、この丘陵部に開発の波が押し寄せて、その姿が徐々にではありますが変容の一途を辿っています。

柏原市内の自然環境も市民の貴重な文化遺産であります。市域全体には旧石器時代以降縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代等の数多くの遺跡が長年の苦節に堪えてきた考古資料もその一つであります。この文化財は、一度破壊されれば二度と復元が出来ない文化的な所産であり、地域の歴史遺産として長く遺されるべきものです。本書は、柏原市域の開発や造成に対して事前の発掘調査を実施し、文化財を保存のため実施した調査成果を報告するものです。

今回報告する内容は、公共事業を主体とした市内各遺跡において実施した調査事例を報告するものです。本郷遺跡では弥生時代から中世までの遺物が出土して集落の範囲や遺跡の規模が判断出来る良好な資料となりました。田辺遺跡は、国分小学校の校庭南側に小規模建物を建築する事前調査を実施し古墳時代後期の鍛冶関連の工房跡が見つかり、田辺遺跡の性格を示す特徴的なものとして工房の規模や配置復元を行うための貴重な資料を得ました。片山廃寺は、寺域内外に下水道工事を埋設する際に立会調査を実施し、白鳳寺院の規模や伽藍配置を教唆する資料と寺院建立以前の古墳に伴う埴輪等が出土し、玉手山古墳群解明の新資料が得られました。

これらの調査結果は、柏原市の歴史環境復元にとどまらず各方面からの人々に活用して頂き文化的向上に資する様に祈願するものです。最後に、調査および報告書作成にあたり、関係各位にご理解とご協力を頂いた事を記して感謝いたします。

平成9年3月

柏原市教育委員会

教育長 舟橋清光

## 例　　言

1. 本書は、柏原市教育委員会が平成4、5、6年度に実施した市内遺跡の埋蔵文化財発掘調査の本郷遺跡（93－3次調査）、本郷遺跡（95－1次調査）、片山廃寺（94－1次調査）、片山廃寺（94－2次調査）、田辺遺跡（94－6次調査）の調査概要報告書である。
2. 発掘調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野　重を担当者として実施したものである。
3. 調査の実施にあたり、下記の諸氏の参加があった。

米田 博	橋谷和夫	長西茂樹	安村俊史	石田成年	寺川 欽
生駒美洋子	阪口文子	櫛原美智子	藤川富久子	西島信彦	山口 剛
百合藤厚子	藤戸康代	今村和子	尾野絹江	奥野 清	谷口鉄治
分才隆司	乃一敏恵	有江マスミ	村口ゆき子		

4. 本書の執筆は、北野、阪口が行った。
5. 本書で使用した標高と方位は、特に注記しないかぎりT. P.、磁北である。
6. 本調査に際して、写真、実測図を記録として残すと共にカラースライドを作成した。また、出土遺物は、写真、実測図と共に当教育委員会事務局にて保管している。広く利用されることを願うものである。

# 目 次

第1章 本郷遺跡.....	1
93-3次調査.....	1
95-1次調査.....	3
第2章 片山廃寺.....	7
94-1次調査.....	7
94-2次調査.....	14
第3章 田辺遺跡.....	15
94-6次調査.....	15

# 挿 図 目 次

図-1 本書掲載調査地位置図.....	目次
図-2 調査地位置図.....	1
図-3 調査区位置図その1 .....	2
図-4 調査区位置図その2 .....	2
図-5 調査地位置図.....	3
図-6 調査区位置図.....	4
図-7 人孔1 .....	4
図-8 出土遺物.....	5
図-9 調査地位置図.....	7
図-10 調査区位置図その1 .....	8
図-11 調査区位置図その2 .....	8
図-12 調査区位置図その3 .....	8
図-13 出土遺物その1 .....	9
図-14 出土遺物その2 .....	11
図-15 出土遺物その3 .....	12
図-16 出土遺物その4 .....	13
図-17 出土遺物その5 .....	13
図-18 調査区位置図.....	14
図-19 調査地位置図.....	14
図-20 調査区位置図.....	15
図-21 調査区位置図.....	16
図-22 遺構平面図.....	16

図-23 井戸1遺物出土状況と断面図	16
図-24 出土遺物	17

## 図 版 目 次

図版1 人孔2全景	人孔2掘削状況
図版2 人孔2土層断面	人孔2調査状況
図版3 人孔3全景	人孔3調査状況
図版4 人孔4全景	人孔4調査状況
図版5 人孔1全景（西側から）	人孔1全景（北東側から）
図版6 人孔1土層断面	人孔1遺物出土状況
図版7 人孔1石列遺構（東側から）	人孔1石列遺構（西側から）
図版8 片山神社境内掘削状況	片山神社近接地掘削状況
図版9 片山神社近接地掘削状況	片山神社近接地掘削状況
図版10 片山神社近接地掘削状況	片山神社近接地掘削状況
図版11 調査区全景（北側から）	調査区全景（南側から）
図版12 建物ピット検出状況	建物ピット検出状況
図版13 土坑1全景（東側から）	土坑2全景（北側から）
図版14 井戸1遺物出土状況（東側から）	井戸1遺物出土状況（西側から）
図版15 井戸1底部遺物出土状況（南側から）	井戸1底部遺物出土状況
図版16 井戸1完掘状況（西側から）	井戸1土層断面（西側から）



図-1 本書掲載調査位置図

# 第1章 本郷遺跡

## 93-3次調査

- ・調査対象地 柏原市本郷5丁目
- ・調査期間 平成5年12月9日～平成6年2月23日
- ・調査面積 56.4m<sup>2</sup>/100m<sup>2</sup>

今回の調査は、本郷5丁目の道路内に下水道管を埋設する工事に伴った事前の調査である。工事は、人孔1～4の4ヶ所のマンホールを設置し、この人孔間を繋ぐ管は道路部分を掘削しない推進工法によって下水管を敷設するものである。人孔1は、東西方向の道路の最も東側にあたる人孔で、直径1.2mのマンホール部分である。管底まで約5mを測る。上層より厚さ約50cm区切りで掘削していく段階で立会し、遺物の出土が予想される部分は仮置き場にて遺物の採集を行った。人孔掘削時は湧水が激しく土層断面や掘削土から遺物の確認はされなかった。仮置場での遺物の採集を行ったが、遺物の出土がなかった。人孔2は、人孔1より西側へ約30mの場所で、東西方向6.0m、南北方向5.5mの規模の方形の調査区であったが、人孔内南側にNTT送電施設があり、擾乱されていた。道路面から約2.5m下層の地層は、青灰色粘質土で中世以降の遺物が数片出土し、水田の耕作土の状況が推定された。更に下層3.5mまでは暗青灰色粘質土で須恵器、土師器の破片が少量出土した。これらの遺物の年代は流入したものと考えられるが古墳時代から奈良時代までの時期が与えられる。各土層の最終床で遺構の検出を行ったが、水平堆積の状況しか分からなかった。人孔3



図-2 調査地位置図

は、人孔 2 よりさらに100m強西側の三叉路に直径4mの円形調査区である。遺物が出土すると予想される上層は、人力で掘削したが土師器、須恵器の細片が少量出土したが、遺構の検出はなかった。

人孔 4 は、人孔 3 より南側へ約50mの調査区で長辺約6.0m、短辺約3.0mの梢円形調査区である。掘削は、他の人孔と同様の調査方法をとったが、遺構、遺物の出土がなかった。

遺跡が影響を受ける場所は、道路上面から掘削する各人孔だけである。各人孔は、鋼矢板を打ち込んだ後遺跡の存在が予想される層位には注意した。湧水の激しい部分も多く、遺物はごく少量の土師器、須恵器を採集した。

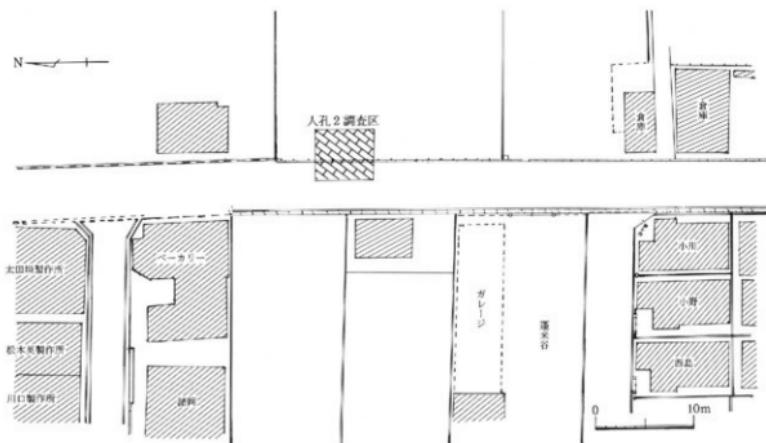


図-3 調査区位置図その1

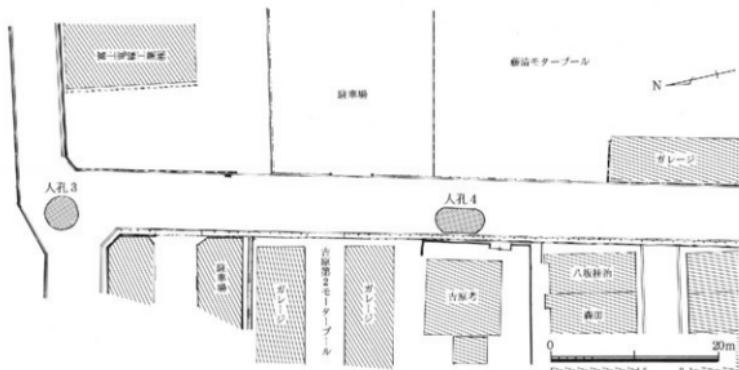


図-4 調査区位置図その2

## 95-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市本郷5丁目
- ・調査期間 平成5年12月9日～平成6年2月23日
- ・調査面積 56.4m<sup>2</sup> / 80.0m<sup>2</sup>

本郷遺跡は、近年開発に伴い調査が増加し、縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良時代と各時代の遺構や遺物が濃密に検出されており、柏原地区の遺跡群の中で規模が大きく内容の多い遺跡である。

遺跡の全体の中で遺構と遺物が検出される場所とされない場所が極端に存在し、どのような集落形成を為しているか不明な点が多い。遺構がある場所は、幾つかの微高地に形成して点在し、低地は、農耕地又は氾濫原としてほとんど集落関連遺構が伴わないのではないかと考えられる。遺跡の深度が地表下3～5mと深いため調査事例も少ない。大規模な開発と下水道工事等の公共事業に伴う調査によって遺跡の概要が明らかになりつつある。

縄文時代の遺構や遺物は、本郷平野線の外環状線と国道25号線との中央付近の狭小な範囲から縄文土器が出土している。

弥生時代は、遺跡の北側を中心として広範囲に遺構と遺物が出土している。このことから、北側になるに従い遺物の出土が多く八尾市の弓削遺跡と同一遺跡となる可能性も考えられる。しかし、船橋遺跡との境部分から当遺跡の南側区域がこれまで調査例が少ないとあるが、全体的に遺物の出土が少なく農耕地として使用されていた可能性が高い。

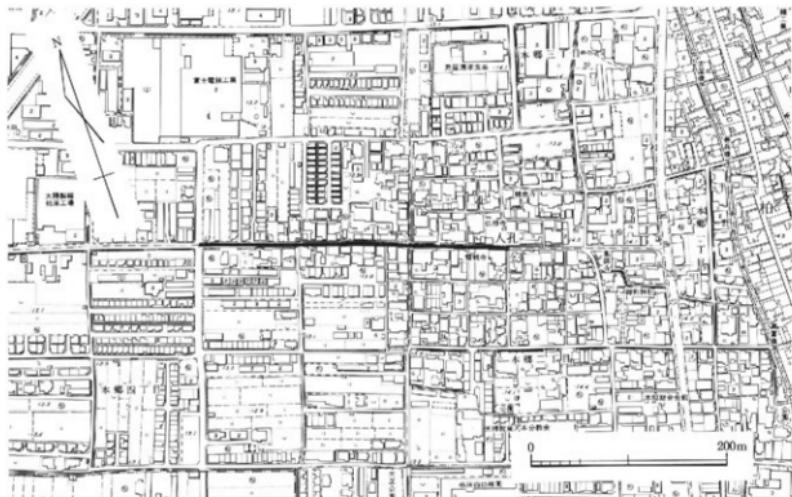


図-5 調査地位置図

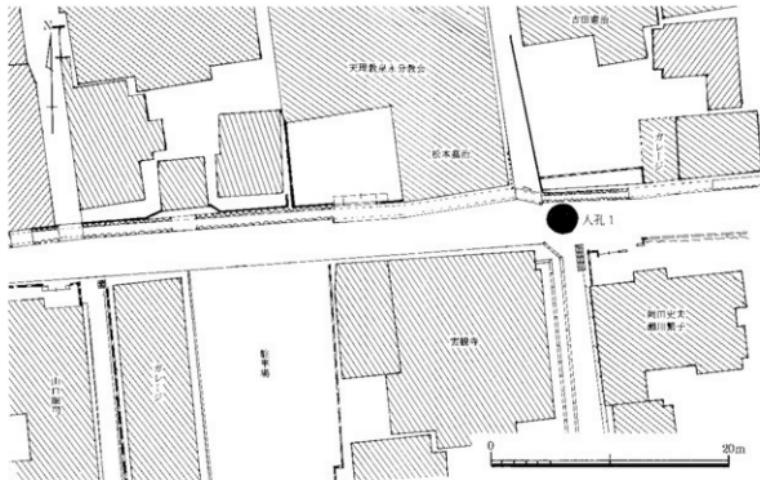


図-6 調査区位置図

今回調査した場所は、本郷平野線より約50m南側の本郷29号線の道路内である。人孔は1ヶ所を調査した。場所は、国道25号線より西側へ140mの距離である。人孔の直径2m弱の円形を測り、上層から約50cm単位に人力掘削し、掘り下げた。上層から約2.5m下層の土層から遺物の出土が認められ、遺物が出土する土層から慎重に掘削した。

土層は、第1層は、約1m厚、水道管等による攪乱が激しい土層である。第2層は、青灰色砂土で約50cmの厚さを測る。更に第3層は、青灰色粘土である。微砂粒を含むが粘性が強い。第4層は、暗青灰色粘質土である。この土層中には赤褐色、茶褐色、黒灰色の焼土塊と灰白色的薄い灰層が堆積していた。地山と考えられる土層は緑灰色の粘質土である。第3層から土師器、須恵器、輪羽口等の細片が出土し、古墳時代から奈良時代にかけての堆積層と考えられる。

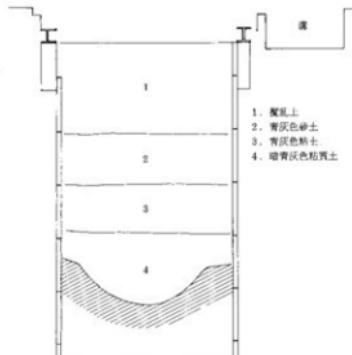
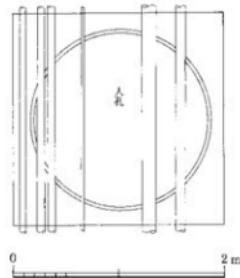


図-7 人孔1

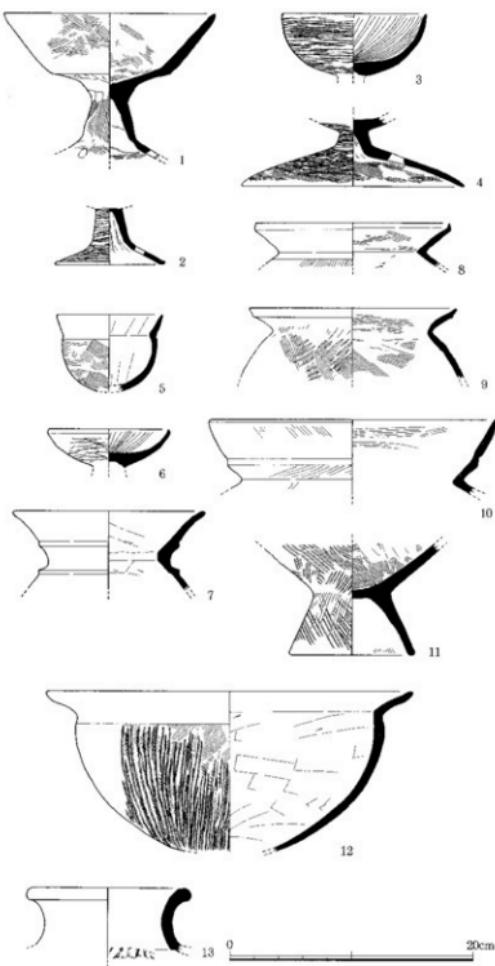


図-8 出土遺物

第4層は、弥用時代後期の土器と焼土塊が出土し、土器の中には二次焼成を受けた土器や灰層もみられることから、火を長期間使用した工房跡の可能性がある。調査区が狭くどのような性格を持つか明確でない。北野

1～12は、土師器である。1～4は高杯。5は、小型丸底壺。6、7は、器台。8～10は壺。11は、壺。12は、鉢。

1は、口径17.3cm、脚裾部を欠く。杯部は深く段をなして外上方へのび、口縁端部は尖り気味である。内外面に不定方向のハケメ（6本/cm）調整。脚部は外下方に向かって外反し、裾部近くに3方向の円孔を穿つ。外面に縦方向のハケメ（8本/cm）、内面は裾部分に不定方向のハケメ調整。脚部から杯部のくびれ部分にはヘラケズリを施している。2は、脚部。杯部を欠く。脚径8.8cm、脚高4.6cm、外下方に向かってのび裾部で大きく開く。裾部に3方向の円孔を穿つ。脚部外面を縦方向に面取りしたのち細かい横方向のヘラミガキ調整を施す。内面には絞り痕がみられる。3は、杯部。脚部を欠く。口径11.8cm、杯高5.05cm。半球形の形態を呈す。内外面共にナデののち外面を細かい横方向のヘラミガキ調整、内面に放射状暗文を施す。4は、脚部。口径18.1cm。脚柱部は短く、外下方に向かって大きく裾広がりとなる。裾部1/2上方に4方向の円孔を穿つ。内外面共にナデ調整後、裾部内外面に不定方向の緻密なハケメ（15本/cm）、後に外面にヘラミガキ調整を施している。脚柱部内面に絞り痕がみられる。5は、口径8.7cm、復元器高6.25cm。丸い体部をもち、口縁部は外上方を向く。外面口縁部を横ナデ、体部にハケメ（7～8本/cm）調整。内面は板ナデ調整を施す。6は、台部、脚部を欠く。口径9.85cm。口縁部は内湾気味に外上方へのび、端部で上方を向く。外面を細かいヘラミガキ、内面をナデ調整のち放射状暗文を施している。7は、山陰系の鼓型器台、口径15.6cm。脚部から台部にかけて大きく折れ曲がる様に外反し段をなして口縁部に至る。端部は丸い。形態は上下対称であろう。外面はナデ調整。内面は中央部付近をヘラケズリ、他はナデ調整を施している。8は、庄内壺、口径15.9cm。頸部内部で鋭角に屈曲し、口縁部は外上方を向き、端部をつまみ上げている。外面肩部をハケメ調整、内面はヘラケズリを施す。口縁部はナデ調整。9は、口径17.0cm肩部から口縁部にかけて大きく外反し、口縁端部で外側に段をなし外上方に向く。外面は体部に叩きを行った後、ハケメ（6本/cm）調整。内面は、ハケメ（9本/cm）後にナデ調整を施している。10は、口径23.4cm。頸部は外上方に屈曲し、口縁部下方1/3で凸線様に段をなし、端部は丸い。内外面共にハケメを行った後ナデ調整を施す。11は、台杯壺と思われる。台径10.1cm。底部より外上方に開いて接地する。外面は底部から台部かけて叩きを行った後、台部分にハケメを施す。内面底部は細かいハケメ（9本/cm）後ナデ消している。他地方の土器であろう。12は、口径29.9cm。体部は内湾しながら上方へとのび、頸部内面で外側に屈曲し口縁部でさらに外上方に開く。体部外面は叩きを行った後ハケメ、さらに密な縦方向のヘラミガキ。内面は体部の上方をヘラケズリ、他はナデ。口縁部は内外面共に横ナデ調整を施す。外面体部から底部にかけて煤が付着。13は、須恵器壺。12.6cm。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸い。内外面共に回転ナデ調整を施す。阪口

## 第2章 片山廃寺

### 94-1次調査

- ・調査対象地 柏原市片山町地内
- ・調査期間 平成6年2月3日～平成6年2月25日
- ・調査面積 100m<sup>2</sup>／250m<sup>2</sup>

片山廃寺は、玉手山丘陵の先端部分の標高35mの高台に築造された白鳳時代から奈良時代にかけての古代寺院である。主要伽藍は、現在の薬師堂の下に塔跡が一部調査によって確認されており、塔の北に瓦の散布状況から金堂、講堂を置く四天王寺式の伽藍配置が考えられている。

調査は、当廃寺の寺域内を含め、寺域の西側道路に下水道管を埋設する工事に際し立会調査を実施し、土層の確認と遺物の採集を行った。時期は、当寺院の存続時期の土器類と瓦、また、寺院下層遺物である土師器、須恵器、埴輪、鍛冶関係の輪羽口、鉄滓、鉄製品等古墳時代後期頃の遺物が



図-9 調査地位置図

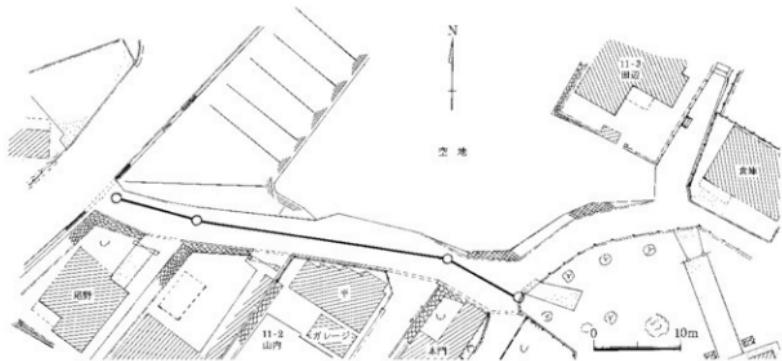


図-10 調査区位置図その1

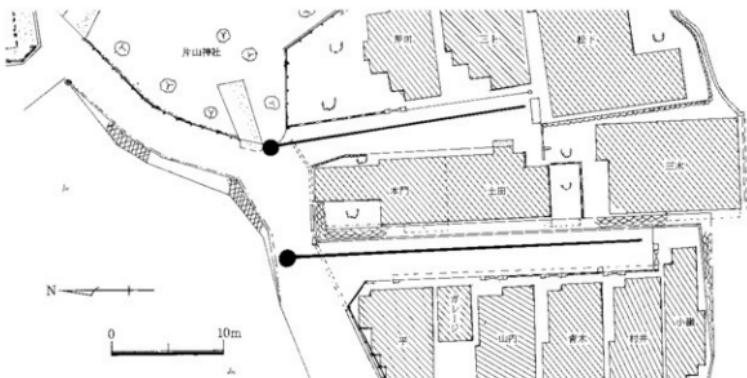


図-11 調査区位置図その2

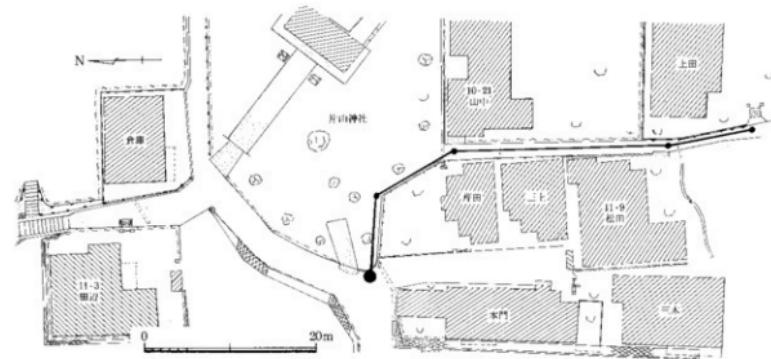


図-12 調査区位置図その3

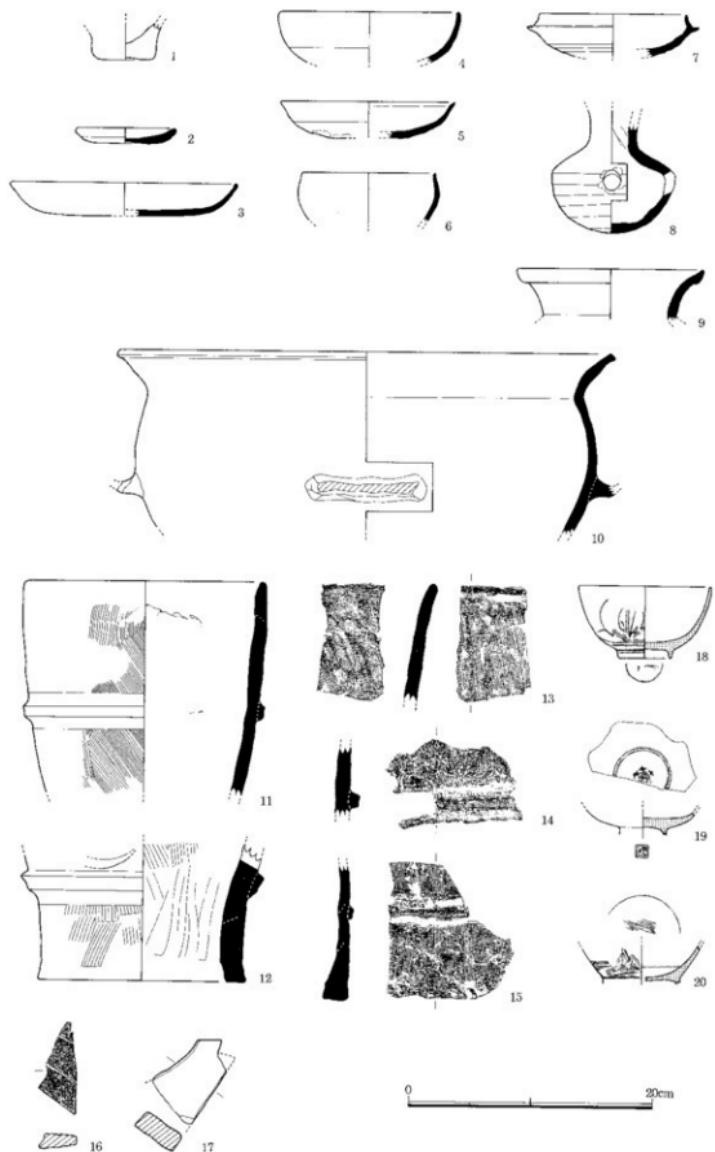


図-13 出土遺物その1

出土した。寺域の西端部に人頭大の石を斜面に平行して並べた遺構を検出した。時期は、埋土から七器の細片であるが出土し当時期のものとすれば古墳時代後期である。片山神社の縁辺部付近や内部から瓦の散布があり、寺院であることが伺われた。また、寺院の下層にあたると考えられる上層から鍛冶関係の遺物が採集された。また、同出土地から炭が多量に出土していることから鍛冶工房があったのであろう。時期は明確にできないが、当寺院築造に関わる工房の可能性が高い。出土したのは松下家の前から少し南側の範囲である。埴輪は、当寺院の西端から丘陵の傾斜変換点までの付近に多い傾向があることから斜面中腹に古墳が築造されていた可能性が高い。北野

出土遺物は、次のとおりである。1は、弥生式土器、甕の底部であろう。底径5.1cmを測る。2～6、10は土師器。7～9は須恵器。2は、小皿。口径7.9cm、器高1.25cmを測る。口縁部は横ナデ調整を施す。3は、皿。口径18.4cm、復元器高2.7cmを測る。平坦な底部から外上方へとのびる。口縁端部は内側へ丸く巻き込む。表面磨耗のため調整は不明。4は、杯、口径14.4cmを測る。底部から口縁部へと内湾しながら立ち上がり、口縁端部で丸く内側へ向く。体部下方1/2をヘラケズリ、他はナデ調整を施す。5は、杯。口径14.2cm、復元器高3.0cmを測る。体部から口縁部へと内湾しながら外上方へとのび、端部近くでやや開く。底体部を指おさえ、口縁部は横ナデ調整が施される。一部黒斑が見られる。6は、椀。口径8.9cmを測る。内湾する体部に口縁端は上方を向き、端部はやや尖り気味。調整は表面磨耗のため不明である。10は、把手付の鍋。口径40.2cmを測る。内湾する体部中央付近の両側に幅広い上向きの把手がつき、体部から口縁部にかけて外反する。表面磨耗のため調整不明。7は、杯身。口径12.0cmを測る。やや短い立ち上がりを有し、底部外面を回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整を施す。8は、瓶。体部は上位に最大径をもち、口頸部はラッパ状に外反する長い形態のものと思われる。体部1/2上方に円孔を穿つ。体部外面下位2/3を回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整を施している。9は、横瓶の口縁部と思われる。口径15.1cmを測る。外反して開く口頸部を有する。内外面共に回転ナデ調整。11～16は、円筒埴輪。11は、口縁部。口径19.1cmを測る。体部から口縁部にかけてやや直線的にのび、端部は丸くおさめる。外面調整は左上がりハケメ（5本/cm）、内面はナデ調整を施す。12は、底部。底径16.8cmを測る。外面をハケメ（4本/cm）調整、内面はつよい指ナデとハケメ調整を施している。円形の透孔を有する。13は、口縁部。外面を縦方向のハケメ（7本/cm）、内面にナデ、ハケメ調整を施す。14は、体部、表面磨耗のため調整は不明である。15は、底部、接地部分は平坦で厚く直線的にのびる。外面調整は縦方向にハケメ（9本/cm）内面にナデを施している。凸帯はいずれも低く粗雑なつくりである。17は、衣笠形埴輪のたちかざり。表面部分をヘラナデ、側面はヘラ切りを行なっている。18～20は、伊万里染付茶碗。全面に釉が施され、草花模様が描かれている。22～24は、軒丸瓦。22は、小片のため瓦当部分は不明。23は、巴文軒丸瓦。巴文の頭部は扁平で尾部は細く長い。珠文は小さい。瓦当裏面はナデ調整を行う。24は、5枚の平らな花弁をもち外縁は幅広い。瓦当裏面はナデ調整。25は、唐草文軒平瓦。脇外区は幅広く、頸の幅は薄い。頸部分と平瓦凹凸面はナデ調整を行っている。21は、丸瓦。凸面に繩目叩きを行い、後ナデ消し、さらに5～6cmの間隔で沈線を入れ、凹面は、タテ糸（7本/cm）、ヨコ糸（7本/cm）の布目がみられる。

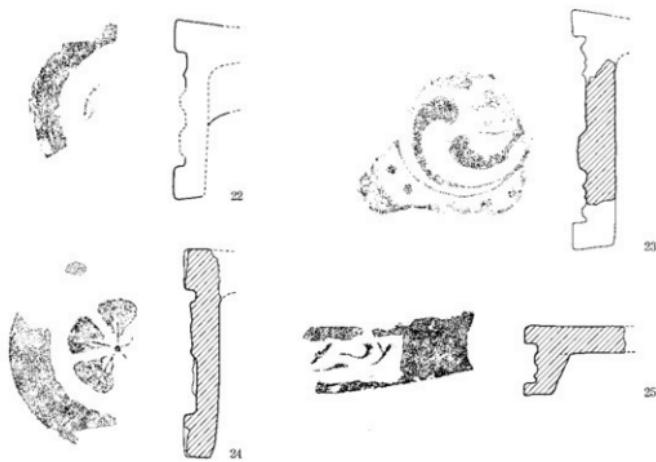
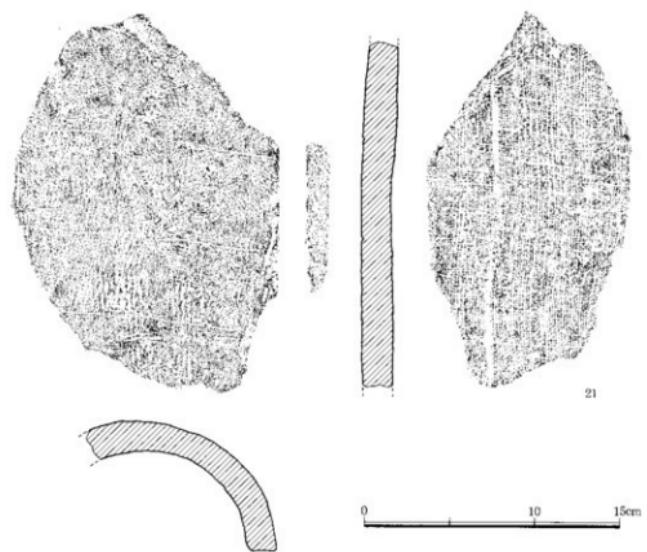


図-14 出土遺物その2

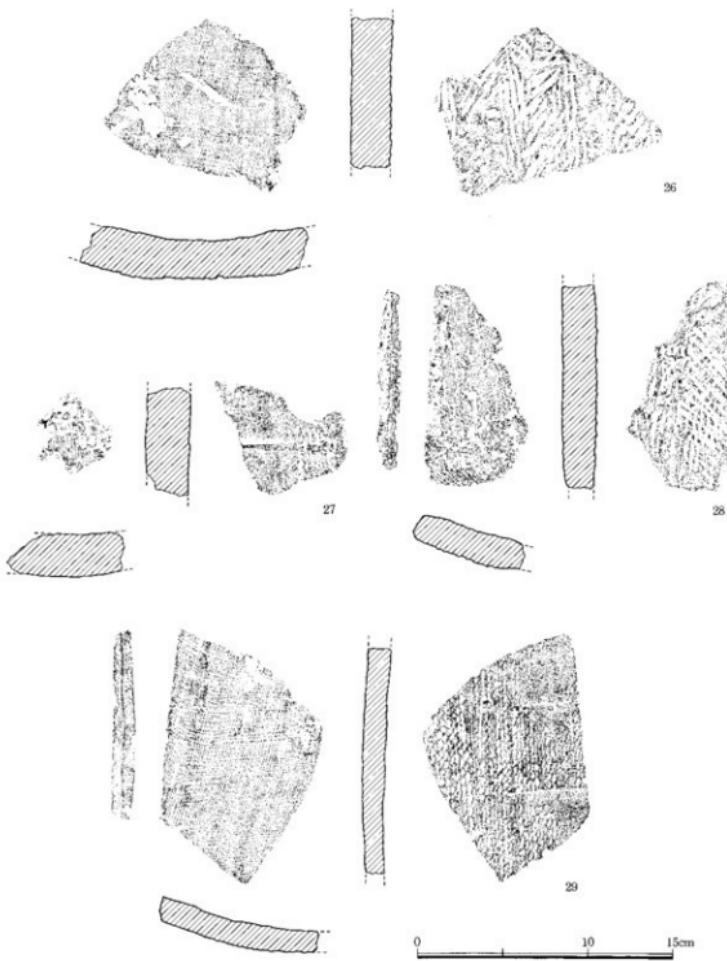


図-15 出土遺物その3

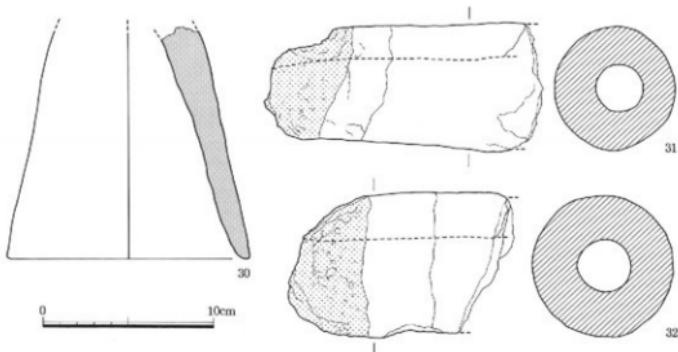


図-16 出土遺物 その4

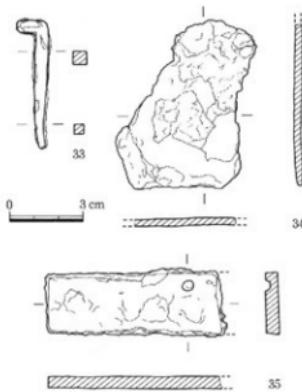


図-17 出土遺物 その5

26~29は、平瓦。26は、凹面にタテ糸（9本/cm）、ヨコ糸（10本/cm）の布目がみられ、凸面を平行線文と粗雑な綾杉文の組合せの叩きを行っている。27は、凹面にタテ糸（8本/cm）、ヨコ糸（9本/cm）の布目、凸面は縄目叩き後スリ消しを行う。凸面の一部に朱が施されている。28は、凹面にタテ糸（9本/cm）、ヨコ糸（9本/cm）の布目、凸面には平行線文の叩きを行う。29は、凹面のタテ糸（8本/cm）、ヨコ糸（7本/cm）の布目が縁側にまでみられる。凸面は縄目叩き後スリ消しを行っている。いずれも桶巻作りであろう。30は、埴輪不明品。底径13.6cmを測り、分厚く外下方に向かって接地する。表面磨耗のため調整不明。31と32は、轆羽口。炭化した先端の灰色部分（スクリーントーン）は炉内に突出している溶融金属が付着した部分、つづいて熱影響によって茶褐色から青灰色に還元され変色した部分は炉壁の厚さを示している。33は、鉄釘、長さ5.3cm、重さ7.7gを測る。34と35は、不明鉄製品。34は、厚さ0.3cm、重さ45.8gを測る。35は、径0.4cmの円形の凹みを有し、厚さ0.45~0.55cm、重さ49.8gを測る。阪口

94-2 次調查

- ・調査対象地 柏原市片山町地内
  - ・調査期間 平成6年2月3日～  
平成6年2月25日
  - ・調査面積  $150\text{m}^2 / 150\text{m}^2$

当調査区は、堺・大和高田線内と同線から丘陵斜面を南側に上った道路内で、下水道管の埋設に立会調査を実施したものである。堺・大和高田線内はほとんど擾乱であった。

また、丘陵斜面は、後世の擾乱か削平によって道路直下若干の盛土を除去すると地山で岩類が非常に多く見られ、遺構や遺物が確認できなかった。

寺域内と考えられる範囲内では攢乱土層の中に瓦片が少量出土した。瓦は端部がすり減り細片で平瓦片であった。寺域の東端にあたる南北方向の道路は、瓦の出土があることから回廊等の遺構が存在した可能性もある。この道路は、主要伽藍がある平面より一段高くなっており、寺院建立に際して丘陵斜面を造成した縁部であろう。



図-18 調査区位置図

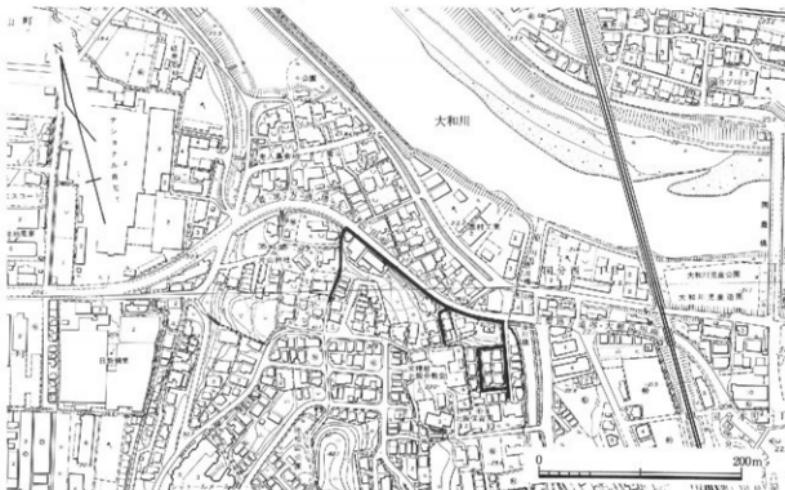


図-19 調査地位置図

## 第3章 田辺遺跡

### 94-6次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町6丁11-4
- ・調査期間 平成6年10月24日～平成6年11月17日
- ・調査面積 40m<sup>2</sup>／130m<sup>2</sup>

当調査区は、市立国分小学校（柏原市国分本町6丁目）の校舎建築に伴う事前の調査である。学校校庭中央南側に小規模な校舎施設を建築する際に実施した。

調査区は、東西方向7.0m、南北方向5.5mのトレンチを設定し、人力掘削にて実施した。校庭の表土より約0.4m下層から古墳時代後期から奈良時代にかけての溝、建物ピット、井戸等を検出した。土層の断面は、第1層が表土及び盛土、第2層が黄灰褐色砂質土である。この土層は、土師器、須恵器等の古墳時代から奈良時代にかけての土器類が出土した。第3層は、黄灰色粘質土である。土師器と須恵器等の遺物から古墳時代後期の遺物包含層と考えられる。

検出した遺構は、井戸1、溝2条、土坑3、建物ピット7を検出した。

井戸1は、調査区の南東隅に検出した円形の素堀りの井戸である。上面は南北1.6m、東西1.2m以上、深さ2.05mを測る。上層が広く下層は少し狭まる、底部は平底である。埋土は、5層あり、第1層は、黄灰褐色粘質土、第2層は黄褐色粘質土、第3層灰褐色砂質土、第4層灰色粘土、第5層は灰白色砂質土である。第3層以下の上層で遺物の出土があり、第3、4層には炭が割合多く混じっていた。

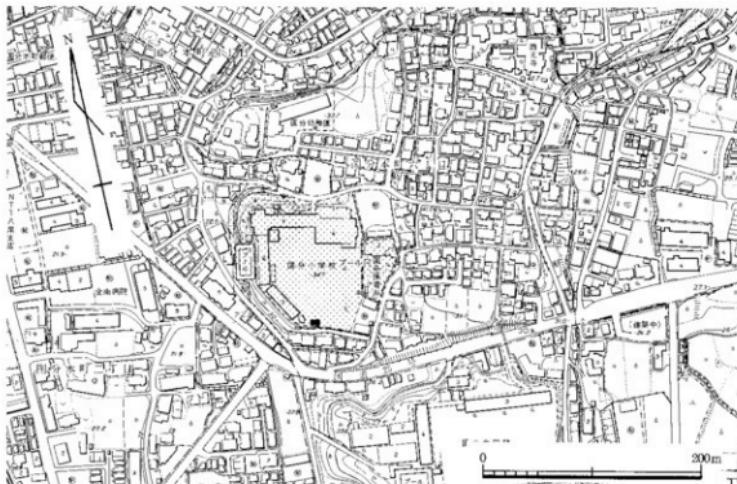


図-20 調査地位位置図

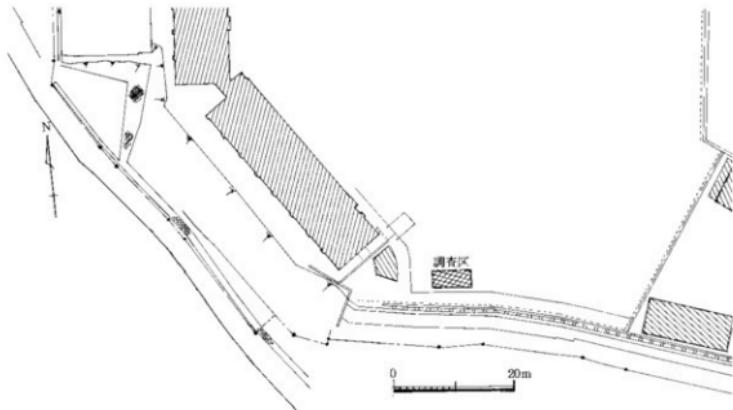


図-21 調査区位置図

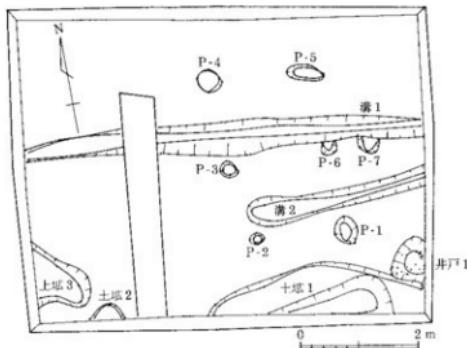


図-22 遺構平面図

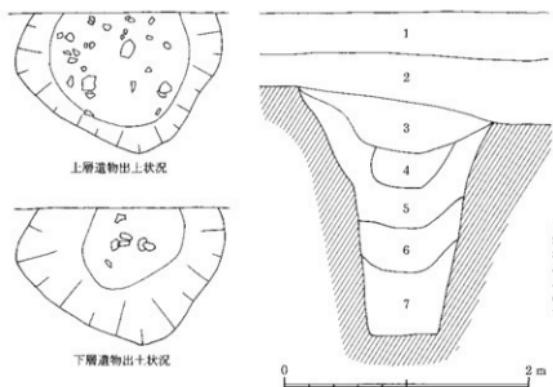


図-23 井戸 1 遺物出土状況と断面図

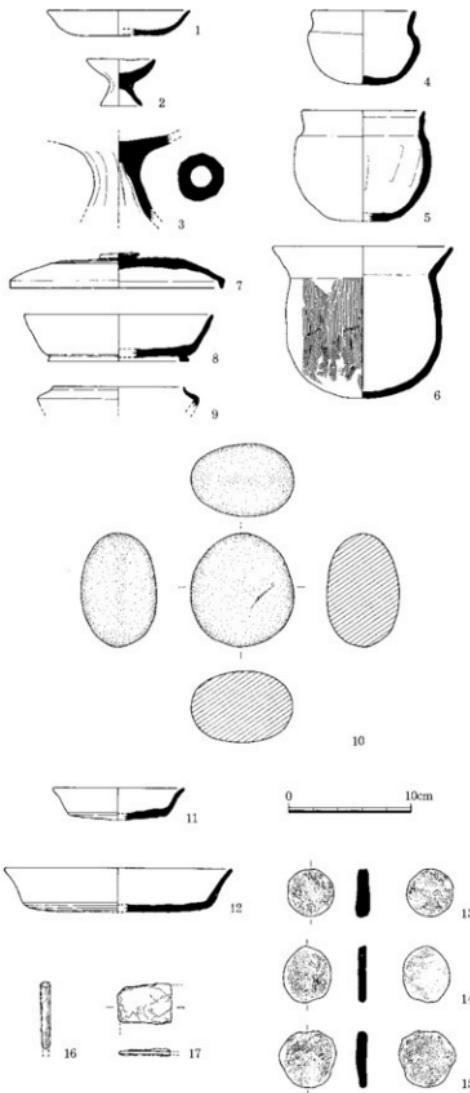


図-24 出土遺物

溝1は、東西方向に直線的に伸び東向きに下向している。幅20~50cm、深さ5~20cmである。時期は、明確でないが土師器の細片が出土し、奈良時代以降と考えられる。溝2は、溝1より南側に平行し、調査区の中程から東側へ直線的に伸びている。規模は、幅30~50cm、深さ5~10cmである。出土遺物はなく時期は明確でないが、奈良時代前後で井戸1に伴う可能性がある。土坑1は、調査区の南東端部に検出した落ち込みで調査区外へ伸びている。規模は東西方向3.8m、南北方向1.0m、深さ30cmである。落ち込みは二段を呈し南側へ落ち込んでいる。埋土は黄茶褐色砂質上で土師器、須恵器の細片が少量出土した。時期は、奈良時代前後と考えられる。土坑2は、調査区南西隅に一部だけを検出した。規模は30~60cm、深さ10cmである。土坑3は、調査区南西隅に一部だけを検出した。規模は90~120cm、深さ10cmである。

建物ピットは、合計7ヶ検出した。東西方向1間、南北方向2間の規模である。柱間は東西1.5~1.7m、南北1.3~1.5mを測る。ピットは円形のものが多く、簡素である。出土遺物が少なく時期は明確でない。中世の頃の建物かもしれない。北野

出土遺物は、次のとおりである。1~10は井戸1下層、11は井戸1中層、12~15は井戸1上層より出土。1~6は土師器。

1は、杯。口径11.9cm、器高2.05cmを測る。平坦な底部にゆるやかに外上方に向く口縁部をもつ。口縁部内外面共に横ナデ調整を行っている。2は、手づくねの小型高杯。口径5.65cm、器高3.85cmを測る。3は、高杯。脚部のくびれ部のみ残存、外面を13面取りしている。内面上方には絞り痕がみられ、他はナデ調整を行っている。4、5は広口壺。4は口径8.45cm、器高6.05cmを測る。丸味をおびた体部とやや外上方に向く口縁部を持つ。口縁端部は丸い。口縁部内外面を横ナデ、体部内面は板ナデ調整を行う。5は、口径10.2cm、器高9.05cmを測る。4と同じ体部の形態をもち口縁部で上方を向き、端部内面で段をなす。口縁部内外面を横ナデ、体部内面は板ナデ調整を行っている。6は、甕。口径15.0cm、器高12.4cmを測る。丸味をおびた底部より体部は内上方に向き、外反する口縁部へとつづく。端部は丸い。外面底部付近から体部に細かいハケメ（10本/cm）、内面をナデ、口縁部に横ナデ調整を行う。

7~9、11、12は須恵器。7は、杯蓋。口径17.6cm、器高2.8cm、つまみ径3.3cmを測る。平らな天井部から緩やかに傾斜して口縁部につづく。口縁部近くで下方へ短く折り曲げ端部は内傾して丸い。扁平な擬宝珠様つまみがつく。天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整を行う。8は、杯身。口径15.8cm、器高3.85cm、高台径11.7cmを測る。平坦な底部に外上方にのびる口縁部をもつ。高台は外下方に向いてつく。外面ともにナデ調整を行う。9は、短頸壺。肩部から口縁部の小片のみ残存。口径11.0cmを測る。短く緩やかに外反する口縁をもつ。回転ナデ調整を行なう。11は、小皿。口径10.9cm、器高2.6cmを測る。やや平坦な底部に外反してのびる口縁部をもつ。底部外面を回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整を行う。12は、皿。口径18.9cm、器高3.55cmを測る。平坦な底部に緩やかに外反する口縁部をもつ。底部外面を回転ヘラケズリ、内面を一定方向のナデ、他は回転ナデ調整を行っている。10は、砂岩の叩き石。長径9.4cm、短径8.3cmを測る。13~15は、円形土製品。径3.8~4.6cm、厚み0.7~1.2cmを測りいずれも表面磨耗が著しい。16は、鉄釘。17は、不明鉄製品。阪口

# 図 版



人孔2全景

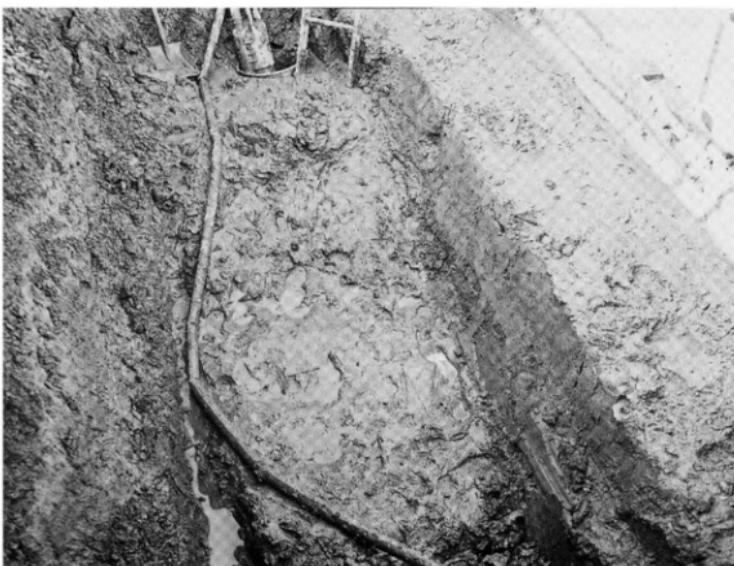


人孔2掘削状況

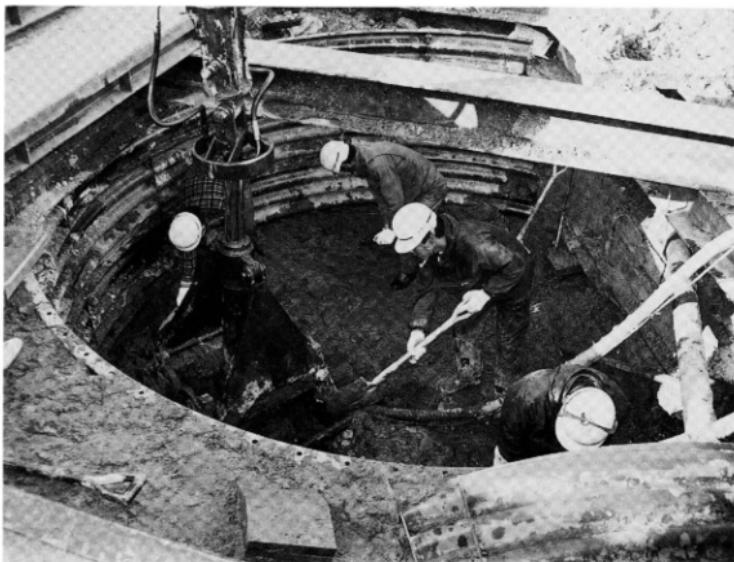
図版二  
木郷93—3次調査区



人孔2 土層断面



人孔2 調査状況



人孔3全景

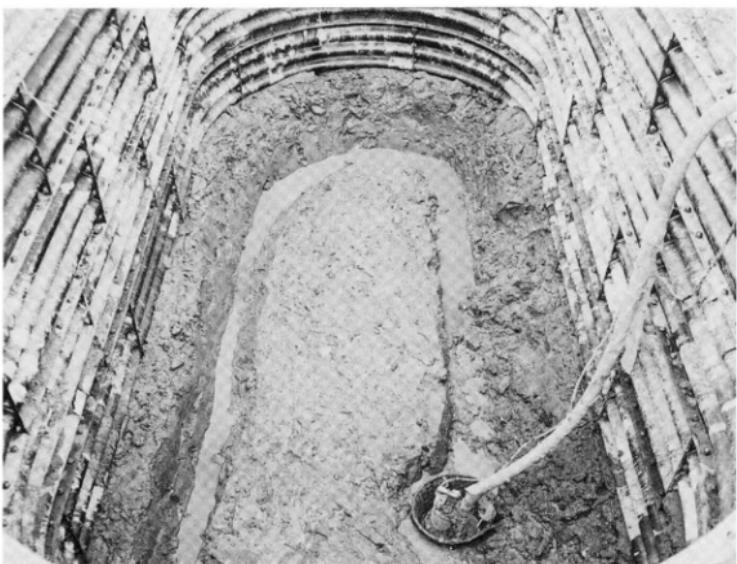


人孔3調査状況

図版四  
木郷93-3次調査区



人孔4 全景



人孔4 調査状況



人孔1全景（西側から）



人孔1全景（北東側から）

図版六

本郷95-1次調査区



人孔1土層断面



人孔1遺物出土状況

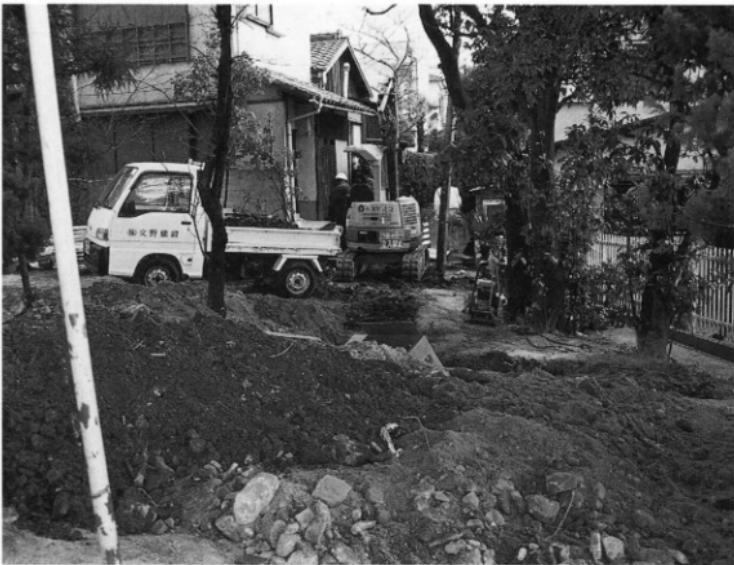


人孔1石列遺構（東側から）



人孔1石列遺構（西側から）

図版八 片山廃寺94-1次調査区



片山神社境内掘削状況



片山神社近接地掘削状況



片山神社近接地掘削状況



片山神社近接地掘削状況

図版十 片山廃寺94-1次調査区

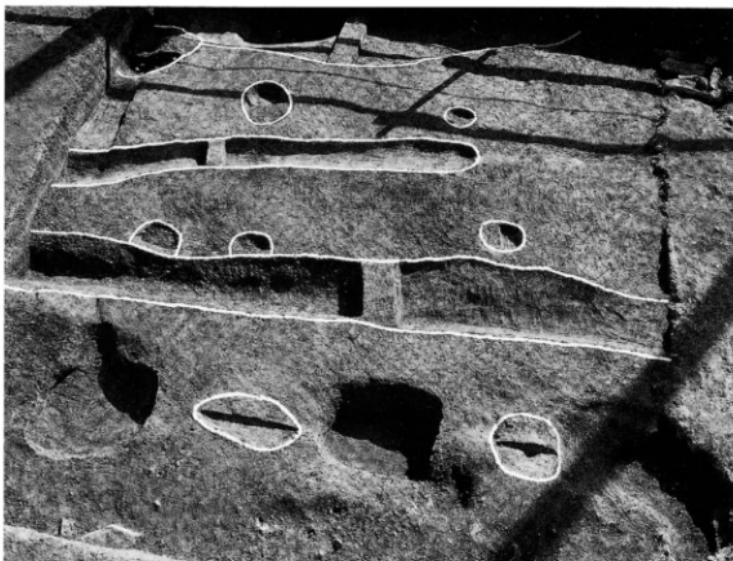


片山神社近接地掘削状況



片山神社近接地掘削状況

図版十一 田辺遺跡94-6次調査区

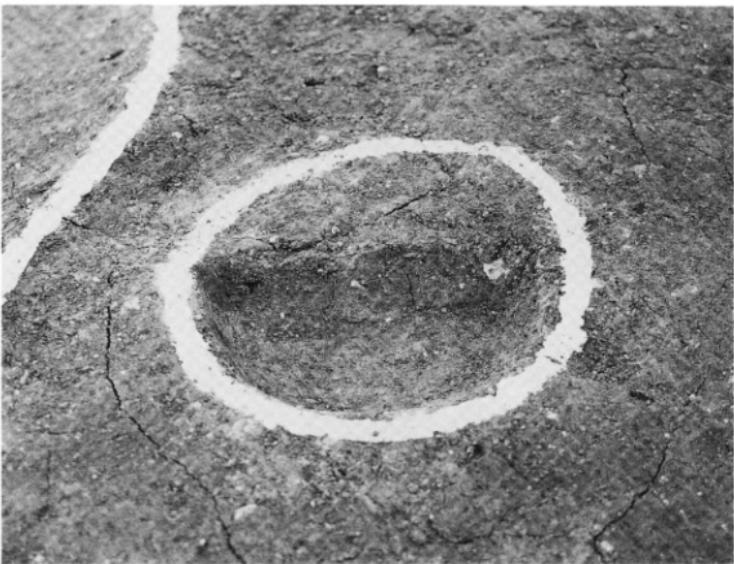


調査区全景（北側から）

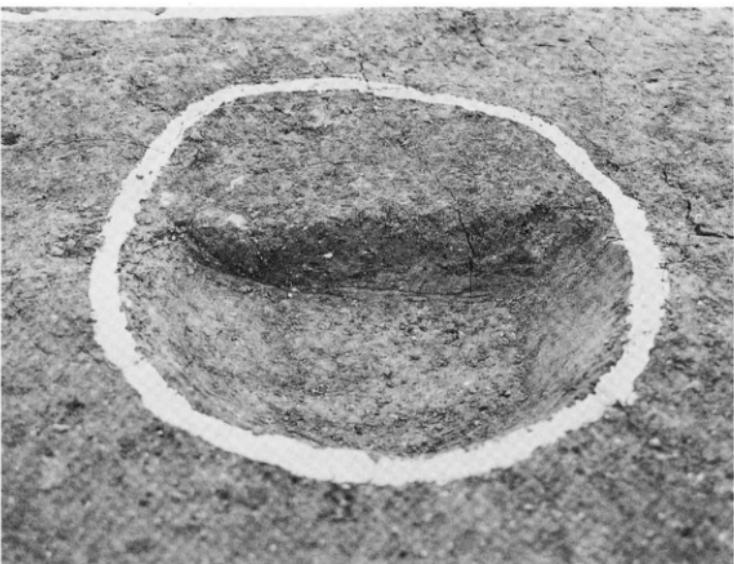


調査区全景（南側から）

図版十二  
田辺遺跡 94-6次調査区

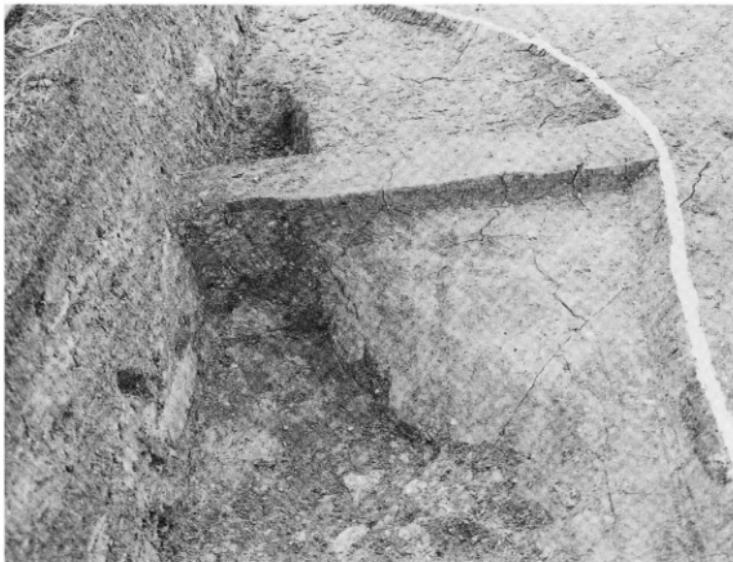


建物ピット検出状況

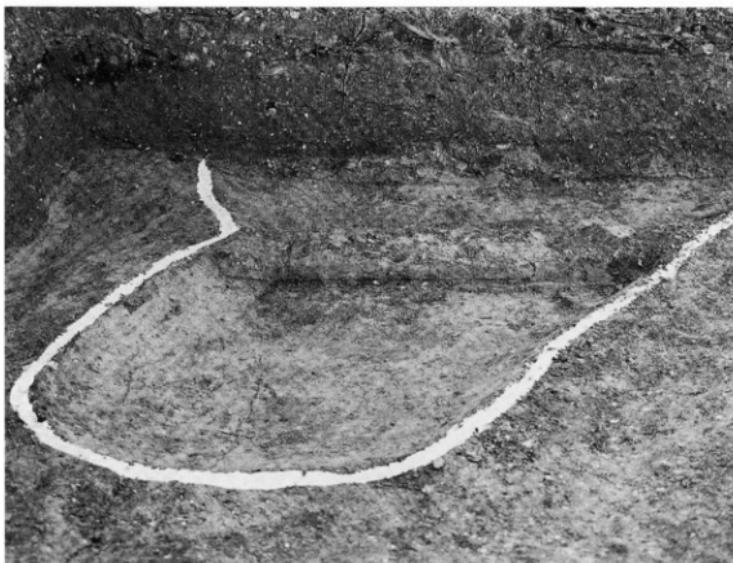


建物ピット検出状況

図版十三  
田辺遺跡94-6次調査区



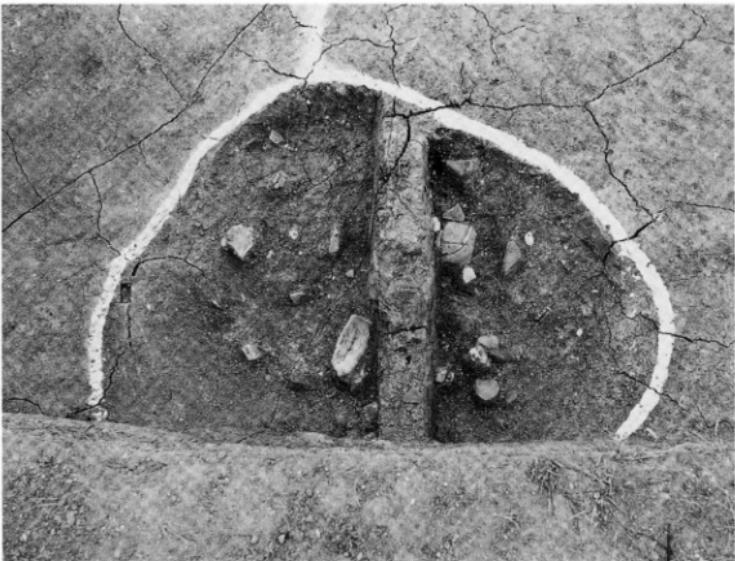
土坑1全景（東側から）



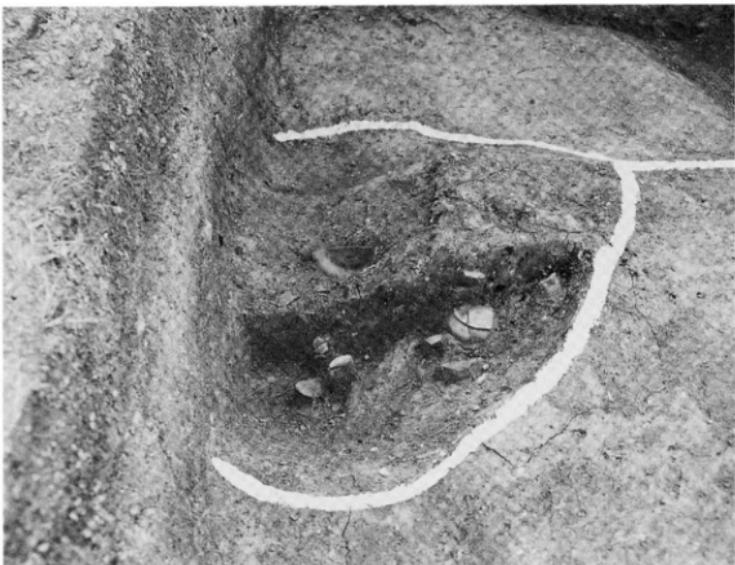
土坑2全景（北側から）

図版十四

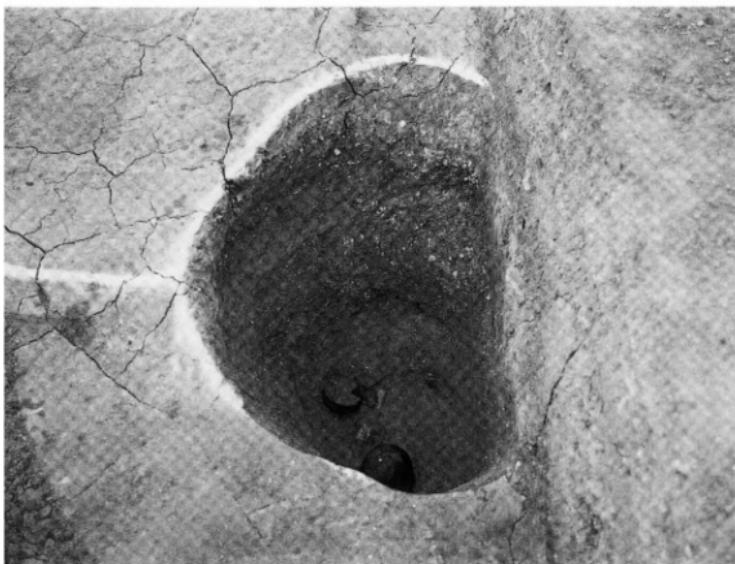
田辺遺跡  
94-6次調査区



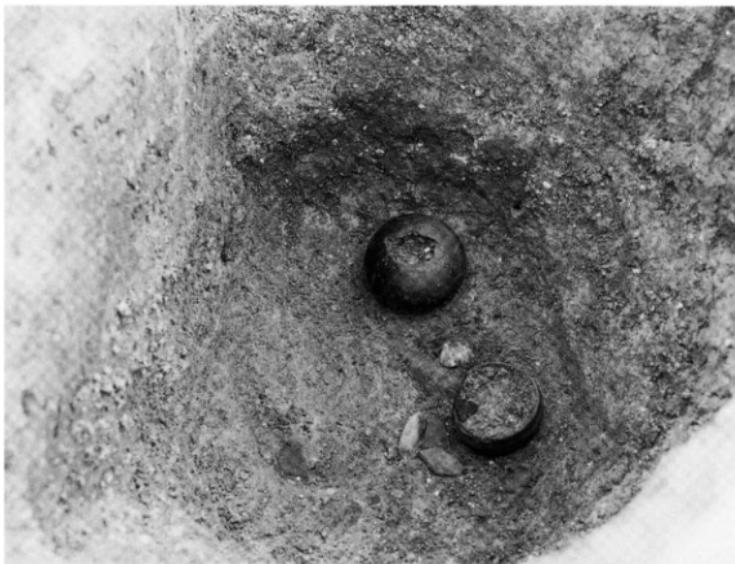
井戸1 遺物出土状況（東側から）



井戸1 遺物出土状況（西側から）



井戸1底部遺物出土状況（南側から）



井戸1底部遺物出土状況

図版十六  
田辺遺跡  
94-6次調査区



井戸1完掘状況（西側から）



井戸1土層断面（西側から）

# 報告書抄録

ふりがな	かしわらしょざいいせきはっくつちょうさがいほう
書名	柏原市所在遺跡発掘調査概報
圖書名	
巻次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	1996-II
編著者名	北野重
編集機関	柏原市教育委員会
所在地	〒582 大阪府柏原市安堂町1-43 TEL 0729-72-1501
発行年月日	西暦 1997年3月31日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地 市町村・道路番号	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	道路番号					
ほんごういせき 本郷遺跡	かしわらしほんごう 柏原市本郷	27221		34度	135度			公共下水道埋管に伴う
				35分	37分			
				15秒	15秒			
かたやまはいじ 片山庵寺	かしわらしあたやま 柏原市片山	27221		34度	135度			公共下水道埋管に伴う
				33分	38分			
				45秒	5秒			
たなべいせき 田辺遺跡	かしわらしちくたんばいせき 柏原市国分本町	27221		34度	135度			公共下水道埋管に伴う
				33分	38分			
				30秒	30秒			

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本郷遺跡	集落	弥生時代	土塁	弥生土器	
片山庵寺	寺院	白鳳	石列	瓦、輪羽口、鐵滓	
田辺遺跡	集落	奈良時代	井戸、建物、土塁、溝	上飾器、須恵器、鐵滓、輪羽口	

柏原市所在遺跡発掘調査概報

1996年度

編集・発行 柏原市教育委員会

発行年月日 平成9年3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

